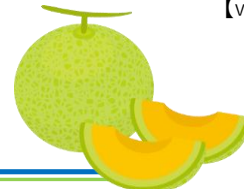


サンビオティック農業で大豊作！

スイカ・メロン栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
2～3月	育苗期	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5～10%	混和	播種または鉢上げする場合は培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和し、2週間程度おくと、良くなじみます。
		(健苗育成) 菌力アップ コースゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	発芽後やセルトレー育苗の場合は菌力アップは500倍希釈、本葉展開後は300倍希釈、ポットへ鉢上げ後は100～200倍希釈で灌水します。培土に元肥が入っていない場合や、肥料が足りない場合は、市販のNPK液肥を混用します。 (自身で接ぎ木や挿し木する場合は、切断面に菌力アップが掛からないように注意し、活着後からご使用ください。)
		(高温・乾燥対策) イーオス タスケルプ！	300～500倍希釈 2000倍希釈		夏季や乾燥しがちな時期の育苗や、病害対策の場合、または徒長気味の時はイーオスとタスケルプ！を使用します。菌力アップとは混用しません。苗立枯病、つる枯病等の糸状菌病害の対策では、さらに本気Ca(マジカル)2000倍希釈を加用します。
コースゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (7～10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコースゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca(マジカル)2000倍を加用します。		
3月	本圃準備 (元肥)	完熟堆肥 有機百倍 鈴成	1～2トン 3～5袋 5～10袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pH、石灰、苦土などを施用しておきます。特に味の良い果実を作るため、苦土は不足しないように硫酸苦土で設計します。うどん粉病、つる枯れ病など茎葉病害に弱い圃場では、ケイ酸加里もお勧めです。 その後、1～2トン程度バーク堆肥や牛糞堆肥などの堆肥を施用します。(五穀堆肥の場合は50袋)堆肥を散布し、菌力アップを散布したら土壌混和して1か月程度養生します。つる割れ病や半身萎凋病、疫病などの連作病害発生リスクの高い圃場では、菌力アップは10リットルを適宜希釈し、堆肥と一緒に散布し、土壌混和します。また、薬剤土壌消毒や太陽熱消毒、還元消毒をした後は微生物が減っています。消毒後に必ず菌力アップ5～10リットルを灌水します。 定植の1～2週間前に、元肥を施用します。元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。地力に応じて、元肥は抑え気味とし、つるボケを防止します。 鈴成を施用すると、糖度アップ、シャリ感の向上など食味がよくなります。
3～4月	定植期～ 初期生育	菌力アップ コースゴールド 本気Ca	5リットル(200倍) 2kg(500倍) 1リットル(1000倍)	5～7日おきに 灌水(4回以上)	定植直後は活着促進のため、株元灌水で菌力アップ200倍希釈(200～300cc/株)を1日おきに施用します。 活着後は、初期生育のため左記の通り。手灌水する場合は、かっこ書きの倍数で希釈します。灌水を控える場合は、省略します。 農薬散布時には、コースゴールド500倍、純正木酢液1000倍、海王5000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良いです。
4～5月	受粉 着果促進	コースゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布	低温や日照不足時の着花促進には、コースゴールドと海王を葉面散布します。受粉予定日の2～3日前に行くと、効果的です。
5月	着果期～	(追肥) 有機百倍 鈴成 ケイ酸カリ	1袋/回 1袋/回 1袋(20kg)/回	着果後1週間 頃 (2番果の着果 後も追肥)	追肥が必要な体系の場合は、着果後に施用します。うどん粉病などの病害が出やすい品種・圃場では、ケイ酸加里を施用すると発生しにくくなります。 2番果を採る体系では、2番果着果後も1～2袋追肥します。
5～6月	肥大期	糖力アップ コースゴールド	3～5kg 2～3kg	7日おきに 灌水	肥大性の良い品種では、糖力アップの灌水は不要。肥大しにくく、着果数の多い品種や栽培体系では、着果後から樹勢を落とさない管理が重要。糖力アップは収量アップ、なり疲れ防止。灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整します。特に乾燥したときは、灌水すると良いです。 ただし、小玉西瓜の場合は、気温が高い、乾燥がひどい場合など裂皮が入りやすくなる場合があるため、前日に軽く予備灌水を行い、翌日に少量糖力アップを灌水します。 コースゴールドは、灌水、または葉面散布すると食味・品質向上、病害予防になるため、おすすめです。

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
6～7月	2番果	特濃糖力アップ、または糖力アップ コーソゴールド 海王	5kg 5kg 100g(または5000倍希釈)	4日おきに 灌水(2～3回)	1番果収穫後、殺菌剤をしっかりと散布し、枯れた葉や踏みつけたツルは切除します。葉の健康を取り戻すことが最重要です。灌水チューブを敷設していない場合は、動噴の先端ノズルを外して、圃場全体に左記液肥の希釈液を飛ばして全面灌水します。固形肥料を追肥した場合は、特濃糖力アップまたは糖力アップは省略して構いません。
土壌 病害時 (随時)	フザリウム、疫病、べと病、センチュウなど	菌力アップ 純正木酢液 本気Ca	10リットル 1000倍希釈 1000倍希釈	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応する。適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ・純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。ネコブセンチュウの場合は、純正木酢液を、糖力アップ5リットルに置き換えて施用します。3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続する。
茎葉 病害時 (随時)	病虫害の対応(うどんこ病、つる枯れ病等)	純正木酢液 本格にがり、または イーオス	500倍希釈 500倍希釈 (水量150リットル)	3日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。にがり、木酢液は、細胞壁や繊維質を強化し、耐病性を高めます。うどんこ病の場合は、ケイ酸加里溶液を手作りして散布する方法もあります。純正木酢液5倍液に、ケイ酸カリ(粉末)を木酢液の1/10量混ぜ、一晚浸漬したのち、その上澄み液を100倍希釈にして使用すると良いです。 (例)水4L+木酢1L+ケイカリ100g→上澄み液を100倍希釈

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。
 ※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。
 ※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。